

しもかけ よせじま
下懸・寄島遺跡

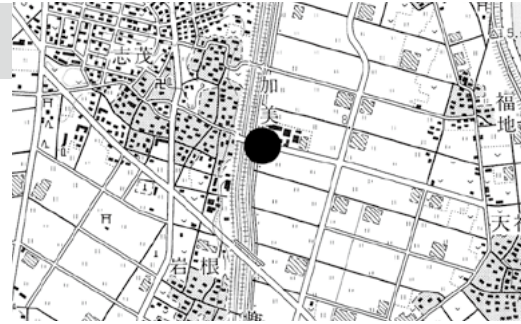
所在地 安城市小川町向田
(北緯34度54分26秒 東経137度05分42秒)

調査理由 中小河川改良工事(鹿乗川)

調査期間 平成29年1月～2月

調査面積 720㎡

担当者 永井宏幸



調査地点(1/2.5万「安城」)

調査の経過 調査は、中小河川改良工事事業(鹿乗川)にともなう事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。調査は、下懸遺跡(252㎡)と寄島遺跡(468㎡)にまたぐ調査区で720㎡おこなった。

立地と環境 遺跡は、碧海台地東縁辺下を南北方向に沿って流れる鹿乗川流域と遺跡の東方約1kmに流れる矢作川によって形成された沖積地に立地する。標高は現況8m前後である。

調査の概要 今回の調査は、昨年度の下懸遺跡調査区の西側、2011年度調査区の南西側に位置する。現在工事が進められている橋梁工事のなか調査を進めた。調査区は、鹿乗川と用水の間に位置する堤防部分を対象に設置した。調査の結果、寄島遺跡2011年度11A・B区にまたがる003NRの一部である河道跡が確認された。

河道跡001NRは調査区全域にまたがり確認され、黒色土の確認された止水性の堆積部分は35m以上に及ぶ。断面観察より、この黒色土は3つの平坦面をもつがわかった。南端の河道岸寄りには大量の土器を含む約4mほどの平坦面(下懸遺跡)、その北側(寄島遺跡)に少し畦状の高まりから一段下がり、15mほどの平坦面、さらに北側へ10m前後の平坦面が確認された。これら平坦面の最下位層に黒色土と腐植土層が堆積し、遺物包含層を形成している。河道底面の一部であるが、人工的な加工面の可能性もある。だとすれば、河道縁辺に設置された水田など耕作地の可能性もある。今回は面的な確認はできなかったが、2011年度の調査では、河道跡の最上層は古代～中世の水田跡が検出されている。

河道跡の南寄り(下懸遺跡)の遺物集積は、弥生時代終末期から古墳時代前期を中心とする土器が出土している。この遺物集積は2011年の調査区とよく似た状況であり、50m以上続く遺物集積帯であろうか。なお、北寄り(寄島遺跡)の平坦面は土器類の出土は少なく、自然木を含め建築部材と思われる大型木製品が数点出土した。

(永井宏幸)



調査区全景(北から)



下懸遺跡側の河道跡遺物集積(北から)